海のこと山のこと
在郷まわりと五芒星

TAKEKAWA Daisuke & YAKEN

奥能登国際芸術祭2017

こんか街道
在郷まわり

こんか街道
在郷まわり

北陸の伝統的な保存食である魚の糠漬けは、能登では「こんかづけ」といい海から山へ行商の主力産物であった。こうした行商はかつてはナダマワリとよばれ、河口に停泊させた船を拠点に村をまわった。また、ダンナンバとよばれる得意先に宿をかりリアカーを使い周辺の家々に売って歩くこともあった。

こんか街道
在郷まわり

海産物は基本的に米などと物々交換された。秋の初めに海産物を置いて歩き、帰りに収穫された米で回収したという。今でも、軽トラの日帰りではあるが、海と山との行商の慣習は続いている。

こんか街道・在郷まわり

「こんか街道・在郷まわり」では、芸術祭の開始の９月はじめに、リアカーに「こんかづけ」をつめた一斗樽を積み、５組が異なる５つのルートで上黒丸を目指して米と物々交換をしながら行商をおこなう。

こんが街道在郷まわり

行きのルートでは家々に魚を配り、芸術祭の終わりの１０月末には逆ルートで米を回収しながら輪島・舳倉島に戻る。メディアを通じて告知をおこない、地域の人々の歴史と記憶を呼び起こしながら、現在の新しい在郷まわりを実現する。

セーマン☆ドーム

セーマン☆ドーム

「セーマン」とは海女が海に潜るときに身につける魔除けの五芒星である。その語源は陰陽師、安倍晴明に由来する。上黒丸地区の５つの集落、南山・吉ヶ池・洲巻・上正力・北山を結ぶ五芒星の頂点に、それぞれひとつずつスター★ドームを設置する。棚田・森・小川・草原など、それぞれに異なる背景にあわせた空間を演出する。

吉ヶ池
北山
上正力
二子
上黒丸
宗末
八太郎峠
上山
若山川
白滝
洲巻
南山
上黒丸●村落図
by Takekawa Daisuke
宝立山
0
1000m

セーフティ☆ドーム

セーマンソ☆ドーム

集落に点在して設置されたドームは、白い布をかけることで即設の舞台やギャラリー空間となり、芸術祭の会期中に上黒丸をおとずれるアーティストたちの表現の場としてシェアする。集落の高齢者も気安くワークショップに参加しパフォーマンスを見る事ができる。

セーフジ☆ドーム

アートプロジェクト2014

上黒丸

巡回むかしがたり幻燈会

上黒丸むかしがたり幻燈会

1ヶ月間、上黒丸地区に滞在し、家々をまわりながら昔の暮らしに関する話を聞き、アルバムに残る白黒写真を撮影。地域の人の語りの中から浮かび上がった50年前の生活を現在の村の風景と重ねあわせ映像作品「上黒丸の昔」をまとめ、撮影したアルバムの写真をもとに映像作品「おもかげ幻燈」を制作した。

巡回むかしがたり幻燈会

巡回むかしがたり幻燈会

巡回むかしがたり幻燈会

村々をまわりドームや土間を利用して「上黒丸の昔」「おもかげ幻燈」を巡回上映した。2014年10月9日　宗末・上正力・吉ヶ池、10月10日　南山・洲巻・北山、10月11日12日　上黒丸。映像を元にした昔語りと、映像をみた村の人々のやりとり全体を作品として表現している。

巡回むかしがたり幻燈会

北國新聞 2014年（平成26年）10月10日（金曜日）

昭和の珠洲 映像で紹介

上黒丸皮切り 北九州の学生が上映

北九州市立大（福岡県）の学生5人による映像作品の巡回上映会は9日、金沢美大と連携してアートによる町おこしに取り組む珠洲市上黒丸地区の3カ所で始まり、昭和初期の写真を思い出とともに紹介した映像に住民の笑い声や故人を懐かしむ声が響いた。

12日にアートイベント

住民から収集した写真をまとめた映像の上映会「巡回むかしがたり幻燈会」は、12日のアートイベント「上黒丸2014」（北國新聞社後援）のプレイベントとして行われた。若山町宗末では学生が手作りした高さ3㍍、直径6㍍のドーム内で住民12人が映像を見詰めた。

中学生や出稼ぎ先の同僚、稲刈り風景、冠婚葬祭の参列者が登場し、「俺の母ちゃんや」などの声が上がった。杜氏や紡織職人ら出稼ぎ労、夫婦の恋物語などを学生が紹介した。

上映会は12日まで7会場で計8回開かれる。

昔の写真を住民に紹介する学生（右）＝珠洲市若山町宗末

来月 珠洲・上黒丸でイベント

稲刈りや炭焼き捉える

竹のドームで映像作品上映

北九州市立大生

金沢美大と連携してアートによる町おこしに取り組む珠洲市上黒丸地区を拠点に、北九州市立大（福岡県）の学生が、珠洲の農村風景を捉えた映像作品づくりに乗り出した。10月12～26日に上黒丸に開かれるイベントに合わせ、手作りのドーム内で上映するほか、市内山間部の集落でも移動上映会を開き、里山の美しさを住民に感じてもらう。

同大の九州フィールドワーク研究会（野研）の学生4人が15日から上黒丸地区に滞在している。市内の農村部を巡り、飛び込みで稲刈りの手伝いに汗を流し、高齢者に出稼ぎや地域の風習を聞き取ったり、炭焼き工場に弟子入りしたりして映像撮影を続けている。

丸生涯学習センターで、学生が刈り取った青竹を組み上げ、直径6㍍、周囲18㍍、高さ3㍍のドームを作った。来月開催のイベント「上黒丸2014」（北國新聞社後援）で、ドーム内の天井に使う布に映像を投射して来場者を楽しませる。会場に来られない高齢者のため、集落を巡る映写会も行う。

映像作品の上映場所となるドームを青竹で作る学生＝珠洲市上黒丸生涯学習センター

野研上黒丸アートプロジェクトリーダーの上津留彩織さん（29）＝同大大学院博士課程3年＝は「珠洲の美しさ、暮らしの移り変わりを表現し、楽しんでもらいたい」と話した。

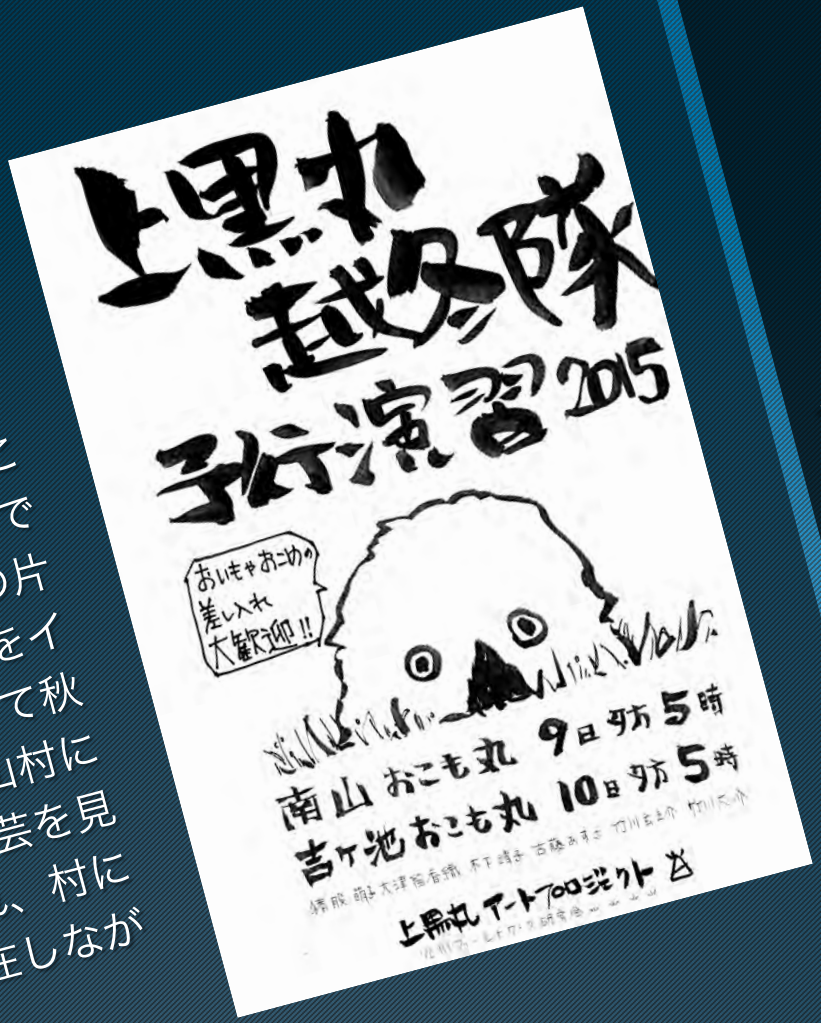
上黒丸2014には金沢美大に加え、北海道教育大と北九州市立大が初参加し、2017年度に同市で開かれる奥能登里山里海国際芸術祭に向け、自然豊かな魅力を発信する。

アートプロジェクト2015

上黒丸

上黒丸越冬隊予行演習「おこも丸」

上黒丸越冬隊予行演習「おこも丸」



上黒丸地区に今も多くのこる萱葺きの家屋。上黒丸南山地区にて萱を刈り、こもを編み、萱葺きのドーム「おこも丸」を作製。おこも様とは河原乞食の別称でもあるが、ここでは村の片端に住む旅回りの家族をイメージしている。かつて秋になるとこの地域の山村に竹細工や器を売り、芸を見せて回る人々が訪れ、村に小屋がけをして滞在しながら米をあつめた。

上黒丸越冬隊予行演習
「おこも丸」

上黒丸越冬隊予行演習「おこも丸」

上黒丸越冬隊予行演習「おこも丸」

上黒丸越冬隊予行演習では「おこも丸」に寝泊まりし、中心につくられた竈で煮炊きをおこない、訪問する上黒丸の村人たちを迎えた。2015年10月9日　南山、10月10日　吉ヶ池。村人たちが竈のまわりにあつまり、秋の収穫を調理しながら、夜長を楽しんだ。

上黒丸越冬隊予行演習「おこも丸」

上黒丸越冬隊予行演習「おこも丸」

北國新聞
2015年（平成27年）10月10日（土曜日）

手製ドームで里山生活

北九州市立大生ら6人

珠洲の風土、人情触れる

北九州市立大（福岡県）の学生と教員6人が9日、珠洲市上黒丸地区で、手製の茅葺きドームの中で夜を明かす体験活動を始めた。土地の物を使った里山暮らしの中で、珠洲の風土を知り、人情に触れることを目的とする。学生らは、棚田に夕日が輝く山あいの町の風景を心に焼き付け、夕食用の野菜を持ち寄る住民との交流を楽しんだ。

「上黒丸越冬隊予行演習」と銘打った活動は、金沢美大と連携してアートによる町おこしに取り組む上黒丸アートプロジェクト（北國新聞社後援）の一環として始まった。学生は、人類学の研究で訪れた南太平洋や東南アジアの島々で見た、バナナの葉などで覆った家屋をヒントに、茅葺きの竹ドームでの暮らしを企画した。

初日は、住民8人が暮らす若山町南山の境内に青竹を組んで高さ3㍍、周囲18㍍、直径6㍍、周囲18㍍の竹ドームを作った。近くで軽トラック6台分のカヤを刈り取り、束を周囲に敷き詰めて、中にいろりを設けた。ドームは「おこも丸」と名付けた。

作業を見た住民はダイコンやナス、カボチャなどの野菜や調理用の植物油を持ち寄り、「若くないとできんことやわ。風邪ひくな」と学生を激励した。

同大文学部の竹川大介教授とともに、里山暮らしに臨むリーダーの猪俣萌子さん(20)＝同大2年＝は、万物を敬う「アニミズム」の考え方を挙げて「寒いだろうけど、自然を敬って暮らす珠洲の里山の生き方を体験したい」と話した。10日には若山町吉ケ池にドームを建て、住民と交流する。

茅葺きの竹ドームを作る学生＝珠洲市若山町南山

作家プロフィール

竹川大介

人類学者。沖縄やソロモン諸島・バヌアツ共和国などを主な調査地として、共同体における資源利用や紛争解決に関するフィールドワークをおこなっている。

竹川大介

沖縄では糸満系漁撈民の技術変遷と環境利用に関する研究をおこなってきた。ソロモン諸島では伝統的なイルカ漁の調査を２０年以上にわたり継続している。バヌアツ共和国では、調査成果を元に村落開発事業「プトンギ・プロジェクト」を立案実施した。

竹川大介

２００３年に正２０−１２面体をもとに６つの星を持つ竹を使ったスター★ドームを開発し、公開技術としてウェブサイト上で発表。「きみだけのそら」というタイトルで、ドームを利用したさまざまなワークショップを主催している。２００５年の愛・地球博での市民プロジェクトをはじめ、全国各地のイベントに参加。

竹川大介

２００８年より学生たちとともに旦過市場に街の縁台「大學堂」を開設し、「大學丼」「将棋処香車」「たんたんマルシェ」「達人講座」などさまざま企画を軌道に乗せ、北九州市街地における観光や福祉、公共空間の活用に関する教育実践と社会実験を続けている。

2004-2005 京都大学・理学研究科・人類進化論研究室修了・理学博士

2005 北九州市立大学・文学部・人間関係学科・教授

2007-2010 【専門】人類学・海洋民族学・フィールドワーク論

2006-2011 愛知万博市民プロジェクト「宇宙船地球号」（プロジェクトリーダー）

2008/8/17 テント芝居・水族館劇場北九州公演（制作団長）

2008- ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「フツナ島村落経済開発」（プロジェクトリーダー）

2009-2013 環境省「石西礁湖自然再生事業支援専門委員会」（専門委員）

2010/3/4 ダンス白州2008「縄文という生命（いのち）」ソロダンス　後山阿南：パートナー　竹川大介（美術・インスピレーション）

2013 北九州市商学連携商業活性化支援事業補助金による旦過市場・北九州大学商学連携事業「旦過市場地域研究および活性化の拠点『大學堂』の運営」大學堂運営実行委員会（代表）

2015/11/6-7 国営沖縄記念公園海洋文化館（資料素材調査検討委員）（海洋文化館展示アドバイザー）

2016/ 1/11 北九州演劇フェスティバル2010語る演劇「地域を耕す」竹川大介・長谷川孝治・永山智行（講演者）

北九州市立大学内にてニホンミツバチの養蜂を開始「放課後みつばち倶楽部」を発足

アートイベント「野良」（招待作家）　枝光アイアンシアター

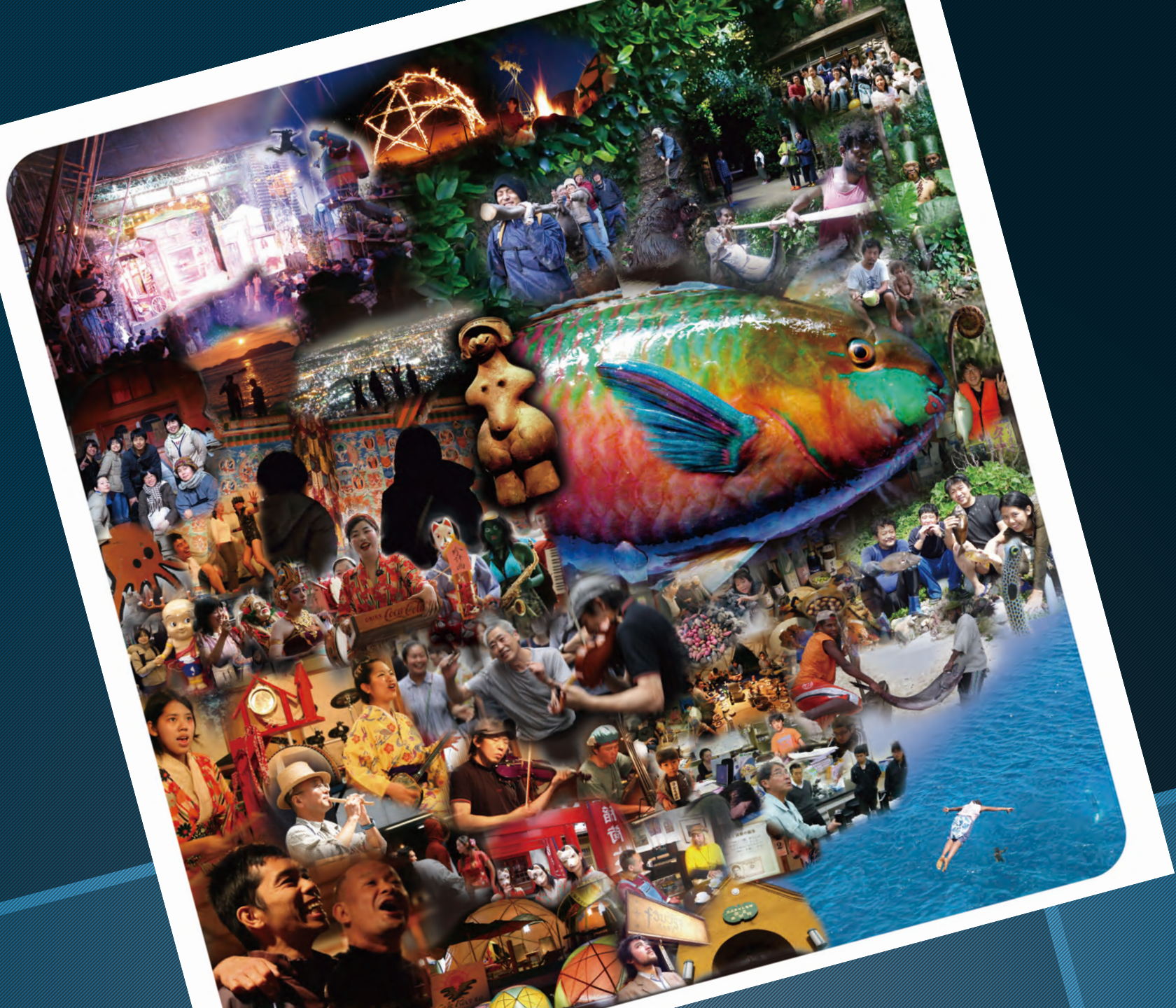
澁澤民族学振興基金「『大学教育とフィールドワーク』に関する実践経験交流と教材開発」公開シンポジウム「フィールドワーク教育ってなんだ？」（主催）

www.apa-apa.net

九州フィールドワーク研究会（野研）

「歩いて、見て、聞いて、それを伝える」。
フィールドワークの基本である正統的な周辺参加を手がかりに、個人の才能の発掘と創造性の創発を実現するために、互酬性と対等性を基盤に構成されているネットワーク志向の研究サロン。

www.daigakudo.net
www.apa-apa.net/~yaken/
1999/4 設立



九州フィールドワーク研究会（野研）

教育と研究と実践の並立を目標に、社会調査の委託を受ける母体となり、地域における研究拠点を作り、資産である人的ネットワークを広げながら、成果を還元する事業を各地のフィールドで展開している。

この１７年間に野研の学生たちが学位論文のために長期調査をおこなった海外の地域や国々は２３カ国におよぶ。

スター★ドームプロジェクトのご紹介

スター★ドームは、竹川大介を中心に九州フィールドワーク研究会（野研）が２０００年より４年がかりで考案したドームである。

スタードームの開発にあたっては、「宇宙船地球号」のコンセプトを提唱したバックミンスター・フラーの思想をバックボーンとしている。

スター★ドーム プロジェクト
こどもだけのまち

未来の建築や人間のくらしのデザインについて深い洞察をおこなったフラーは、最小限の資源から最大限の効率を生み出すための数々のアイデアを提案した。

スタードームもまた、最小限の材料を使って最大の空間を実現するために、素材である竹のテンションを生かした半球構造となっている。

www.stardome.jp

スター★ドームプロジェクト
きみだけのそら

九州フィールドワーク研究会（野研）では、「きみだけのそら」というイベント名で、２００５年の愛知万博をはじめ、全国各地でワークショップをおこなっている。またスター★ドームにかんする特許を放棄し、公開技術としてホームページ上で設計図や実績データを公開している。

www.stardome.jp